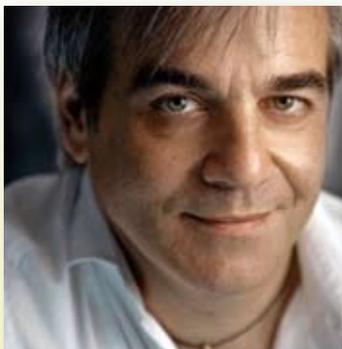


—The MIDORI Prize for Biodiversity—

# “生物多様性みどり賞「国際生物多様性年 特別賞」” ドイツ連邦共和国アンゲラ・メルケル首相に決定



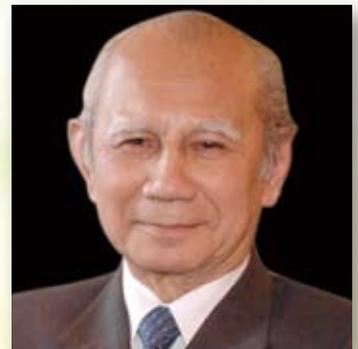
<生物多様性みどり賞 2010年受賞者>



生物学者、探検家、映画製作者  
ジャン・ルミール



スタンフォード大学教授  
グレッチェン・C・デイリー



インドネシア大統領諮問会議 議長、  
元インドネシア人口・環境大臣  
エミル・サリム

2010年10月27日

公益財団法人 イオン環境財団  
生物多様性みどり賞「国際生物多様性年 特別賞」

(公財)イオン環境財団は、10月に名古屋でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催される年であること、さらに当財団設立20周年を迎える年であることを記念し、「The MIDORI Prize for Biodiversity(生物多様性みどり賞)」(\*1)を創設。本年の9月21日(火)、国際連合本部(ニューヨーク)にて受賞者3名(\*2)を発表いたしました。

さらに、本年が国連の定める国際生物多様性年であることを記念して、審査委員会の提起により「国際生物多様性年特別賞」が設けられ、アンゲラ・メルケル ドイツ連邦共和国首相がその受賞者に決定いたしました。

(\*1) 2009年にイオン環境財団と環境省の共催で実施した「生物多様性日本アワード」の国際賞として、これまでに顕著な貢献等が認められ、かつ今後、生物多様性に関する取組の発展や人々の認識を拡大するうえでの影響を有する個人、および生物多様性の保全と持続可能な利用に関し、世界、地域または地方レベルで顕著に貢献している個人 **Persons of Biodiversity** を表彰するものです。

(\*2)ジャン・ルミール氏(カナダ:生物学者、探検家、映画製作者)

グレッチェン・C・デイリー博士(米国:スタンフォード大学 教授)

エミル・サリム博士(インドネシア:インドネシア大統領諮問会議 議長、  
元インドネシア人口・環境大臣)

## 1. 授賞の経緯

メルケル氏は、ドイツ連邦共和国首相として、生物多様性や気候変動など、地球環境問題に対して強いリーダーシップを発揮しております。特に、2007年のG8ハイリゲンダムサミットにおいて、生物多様性を国際的なトップ・アジェンダのひとつに位置づけた功績は大きいものであります。また、同サミットに先立ち開催されたG8ポツダム環境大臣会合においてとりまとめられた、「生物多様性のためのポツダム・イニシアティブ」に基づき、TEEBの検討に着手し、現在の経済と生物多様性に関する議論の基礎を築きました。さらに、CBD/COP9を主催するとともに同会議においてB&Bイニシアティブを創設するなど、ビジネスセクターの参画を推進することにより、社会経済的な観点からの生物多様性の主流化に貢献していることが高く評価され、国際生物多様性年を祈念する特別賞にふさわしいと認められたことから、同氏の貢献を顕彰することといたしました。

## 2. 本賞の主催および協力組織

主催：公益財団法人 イオン環境財団 後援：環境省（MOEJ）

協力：生物多様性条約事務局（CBD） 国際連合大学（UNU）

## 3. 審査委員会メンバー

< 審査委員長 >

岡田卓也（公益財団法人イオン環境財団 理事長、イオン(株) 名誉会長）

< 審査委員 >

アフメッド・ジョグラフ（生物多様性条約事務局 事務局長）

岩槻邦男（兵庫県立人と自然の博物館 館長、東京大学 名誉教授）

コンラッド・オスターヴァルダー（国際連合事務次長、国際連合大学学長）

涌井史郎（東京都市大学 環境情報学部 教授、中部大学 教授）

エリック・ファルト（ユネスコ広報渉外部 事務局次長、前国際連合広報  
ディレクター）

< アドバイザー >

黒田大三郎（環境省 参与）

## 4. 授賞式・賞金

授賞式は生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催地である  
名古屋市において、2010 年 10 月 27 日（水）に開催いたします。当日はドイ  
ツ連邦共和国政務次官 Ursula Heinen-Esser 氏が代理で参加されます。

国際生物多様性年特別賞の受賞者には、木製賞状および賞金（50 万 US ドル）  
を贈呈します。

## 5. 添付資料

受賞者の授賞理由および経歴

## 6. (公財)イオン環境財団と国連生物多様性条約事務局との包括提携について

10 月 26 日（火）に公益財団法人イオン環境財団（以下：同財団）と生物  
多様性条約事務局（以下：同事務局）は、同財団による「生物多様性みどり  
賞」創設を機に、両者で協力し、国内外で生物多様性の保全等に取り組む  
ことを目的に包括提携を締結いたしました。

< 主な提携内容 >

両者で協力し、国内外での青少年を対象にした教育や啓発活動、植樹活動  
など生物多様性に関するプログラムの実施。

両者で協力し、「生物多様性みどり賞」の推進。

## 本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人イオン環境財団 <http://www.aeon.info/ef/en/index.html>

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-5-1

TEL：043-212-6022 FAX：043-212-6815 E-mail：[ef@aeon.info](mailto:ef@aeon.info)

\* ドイツ首相の写真はクリエイティブ・コモンズにより使用認可されたものです。

Image by ✕ (Aleph)

## 授賞理由および主な経歴

### German Chancellor Angela Merkel / アンゲラ・メルケル (ドイツ)

1954 年生まれ (56 才) ドイツ連邦共和国首相

メルケル首相は、2005 年にドイツ連邦首相に就任しました。元連邦環境・自然保護・原子力安全大臣としての経験などを生かし、気候変動や生物多様性といった地球規模の環境問題に関し、強いリーダーシップを発揮してこられました。

ミレニアム生態系評価 (2005 年、MA) の成果に基づいて、メルケル首相は「生物多様性は我々の生命と世界規模での経済発展に必要な基盤をなしている」という見解を議長声明に組み入れ、生物多様性と生態系サービスが経済と社会の強固な基盤であるという認識を高めました。

特に、生物多様性については、2007 年にドイツ・ハイリゲンダムで開催された G8 首脳国会議において、「生物多様性は生態系サービスの提供及び世界経済への自然資源の長期的な供給の必要不可欠な基礎である」ことなどを首脳宣言に盛り込み、G8 としてははじめて生物多様性を主要なテーマとして位置づけることに成功しました。これにより、「生物多様性」は、「気候変動問題」とともに、G8 各国の首脳が取り組むべき優先的な政治的課題としての地位を確立したといえます。

また、メルケル首相の強力なリーダーシップの下、ドイツ政府は特に民間セクターにおける生物多様性の主流化に力を入れてきました。ハイリゲンダムサミットに先立ち、同年ポツダムにおいて開催された G8 環境大臣会合では、「ポツダムイニシアティブ 生物多様性 2010」がとりまとめられました。同イニシアティブに基づき、ドイツ政府は通称「生物多様性版スターンレビュー」とも呼ばれる「生態系と生物多様性の経済学 (TEEB)」レポートの作成に着手し、経済的な側面からの生物多様性の評価を進めました。

さらに、翌 2008 年には生物多様性条約第 9 回締約国会議 (COP9) を主催し、生物多様性とビジネス (B&B) イニシアティブを創設しました。これらのドイツ政府の取組により、第 8 回締約国会議 (COP8) で始まった生物多様性への民間参画の流れは、より確実なものとなり、本年 10 月に日本で開催される COP10 に引き継がれようとしています。

COP9 閣僚級会合においては、ドイツは生物多様性の保護に財政的な支援について先導的な役割を担いました。例えば、メルケル首相は保護区域の拡大のための自主的な取組であるライフウェブ・イニシアティブの実施のため、

2009年から2012年までの間、森林やエコシステムの保全に5億ユーロの支援を約束し、それ以降はさらに毎年5億ユーロを支援すると発表しています。

なお現在、国連環境計画（UNEP）の場などで設立が検討されている「生物多様性及び生態系に関する政府間プラットフォーム（IPBES）」についても、メルケル首相は強い支持を表明しています。これは、生物多様性版の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」ともいえるもので、生物多様性に関する科学的情報が政策決定において飛躍的に充実することが期待されています。

以上のようにメルケル首相は、生物多様性を国際的なトップ・アジェンダとして位置づけるとともに、TEEB や B&B イニシアティブにより社会経済的観点から生物多様性の主流化に貢献され、また保護地域を拡大し IPBES を確立するライフウェブ・イニシアティブを強力に推進されました。メルケル首相の業績は高く評価され、国際生物多様性年を祈念する特別賞にふさわしいと認められたことから、同氏の貢献を顕彰することといたしました。

#### 主な経歴

- 1978年 ライプツィヒ大学物理学科卒業
- 1986年 理学博士号取得
- 1978～1990年 旧東独科学アカデミー附属物理化学中央研究所研究員
- 1990年 政府副報道官
- 1990年～ 連邦議会議員
- 1991年～1994年 連邦女性・青少年大臣
- 1994年～1998年 連邦環境・自然保護・原子力安全大臣
- 1998年～2000年 キリスト教民主同盟（CDU）幹事長
- 2000年～ CDU党首
- 2002年～2005年 連邦議会キリスト教民主／社会同盟（CDU/CSU）会派院内総務
- 2005年～ 連邦首相（2009年10月より二期目）

#### 主な受賞歴等

- 2006年～2009年 「世界で最も影響力のある女性」(フォーブス誌)
- 2007年 ヘブライ大学より名誉博士号
- 2008年 ドイツ連邦共和国功労勲章大十字章受章
- 2008年 カール大帝賞
- 2008年 ライプツィヒ大学より名誉博士号
- 2008年 ヴロツワフ工科大学より名誉博士号
- 2008年 生物多様性条約賞